

都市再生整備計画 事後評価シート

金田地区

平成29年3月

千葉県木更津市

様式2－1 評価結果のまとめ

都道府県名	千葉県		市町村名		木更津市		地区名		金田地区				面積		350 ha	
交付期間	平成24年度～平成27年度		事後評価実施時期		H28年度		交付対象事業費		1069.8百万円		国費率		0.4			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名														
		基幹事業	道路:高速バスターミナル(市道101ー2号線)整備事業 地域生活基盤施設:緑地整備、平面駐車場、自転車駐車場(平面)、総合情報案内板(観光、交通情報案内システム)、電子公共看板(観光情報案内板)、施設総合案内板、施設誘導案内板、地域防災施設(耐震性貯水槽) 高質空間形成施設:金田総合高速バスターミナル交流施設、金田総合高速バスターミナル歩行支援施設 高次都市施設:地域交流センター													
		提案事業	防地域創造支援事業:待合所・トイレ整備事業、犯灯整備事業、交通安全施設整備事業、道路案内標識整備事業、事業活用調査:まちづくり事後調査、まちづくり活動推進事業:観光イベント													
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業	●地域生活基盤施設:緑地整備				土地区画整理事業の進捗により区域内の公園と一体的に整備をする必要から、整備内容を見直した。				影響なし					
		基幹事業	●地域生活基盤施設:平面駐車場				土地区画整理事業の進捗により、用地取得困難であることから、整備内容を見直した。				影響なし					
		基幹事業	●地域生活基盤施設:総合情報案内板(観光、交通情報案内システム)、電子公共看板(観光情報案内板)				急激な携帯情報機器(スマートフォン)等の普及により、公衆無線回線LAN(Wi-Fi)を利用した情報収集が可能であり、整備内容を見直した。				影響なし					
		提案事業	●事業活用調査:まちづくり事後調査				計画期間、交付期間を1年短縮し、事業期間の終了年度をH28からH27に1年短縮したため、まちづくり事後調査は別途事業としてH28に実施する。				影響なし					
	提案事業	●まちづくり活動推進事業:観光イベント				当地区内で急激な商業施設の進出等により、民間事業者等による各種イベントが増えたため、観光イベントの実施を見直した。				影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業														
提案事業																
	交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	地域交流センターの整備を第2期に変更したため、指標3、指標4への直接的な効果発現効果を確認できない。										
		変更	平成24年度～平成27年度													
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標			単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	指標1	定住人口	千人	3千人	H23	5.4千人	H27	モニタリング	評価値	×	あり なし ●	目標値達成には至らなかったが、土地区画整理事業により、職住近接に寄与する大型商業施設、民間企業等が立地し、定住人口は増加した。		平成29年7月		
	指標2	交流人口	万人/年	53万人/年	H23	74.6万人/年	H27		60.2万人	△	あり なし ●	交付期間後の金田高速バスターミナル開業(H28.6)となり、1年以内の目標達成は難しいが、路線数及び便数の増加により、今後も広域からの訪問者が考えられ、乗降者数の増加が期待できる。		平成29年7月		
	指標3	公民館等利用者数	千人/年	7千人/年	H23	9.4千人/年	H27		9.2/年	△	あり なし ●	地区全体の利便性・暮らし易さ・住環境が向上し、定住人口の増加とともに利用者が増え、目標値に近い値まで増加した。		平成29年7月		
	指標4	活動サークル団体数	団体	11団体	H23	13団体	H27		17団体	○	あり なし	地区全体の利便性・暮らし易さ・住環境が向上し、定住人口の増加とともに利用者が増えたと考えられ、目標値は達成した。		—		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標			単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	民間企業の進出数	件	0	H23				8			職住近接に寄与する大型商業施設、観覧車のあるアミューズメント施設、ホームセンター、スーパーなど1ha以上の敷地に立地した8件の商業施設及び民間企業や、沿道型飲食店など各種民間企業が立地し、これにより定住化が促進され、定住人口の増加に寄与していることが確認された。		—		
	その他の数値指標2	(仮称)金田地域交流センターの潜在利用者割合	%	—	H23				13.1			今後の整備が地域交流・活動サークル団体のさらなる活発化に期待されていることが確認された。また、アンケートの自由意見より、地域交流センターが避難場所として期待されていることも確認された。		—		
	その他の数値指標3	道路の安全・安心の確保に対する満足度	%	—	H23				62.5			道路案内標識や通学路標識、防犯灯整備により、道路利用による快適性・安全性の評価が高まり、安全で安心な住環境のまちづくりに寄与していることが確認された。		—		
	その他の数値指標4	災害時の安全・安心の確保に対する満足度	%	—	H23				67.3			耐震性貯水槽の整備により、防災機能が充実し、災害時の安全性の評価が高まり、安全で安心な住環境のまちづくりに寄与していることが確認された。		—		
4)定性的な効果発現状況																
5)実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス		・金田西まちづくり協議会の実施 ・金田東地区防犯灯設置に関する説明・調整会の実施				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も、まちづくり協議会等を通して、住民参加のまちづくりを推進していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
							都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

金田地区（千葉県木更津市） 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：東京湾アクアライン効果を活かした職住近接の新たな玄関口のまちづくり 目標1：広域交流拠点の機能強化による、定住・交流人口の増加 目標2：人口増加に対応した施設整備による良好で安心・安全な住環境のまちづくり	定住人口	単位：千人	3千人	H23	5.4千人	H27	3.5千人	H27
	交流人口	単位：万人／年	53万人／年	H23	74.6万人／年	H27	60.2万人／年	H27
	公民館等利用者数	単位：千人／年	7千人／年	H23	9.4千人／年	H27	9.2千人／年	H27
	活動サークル団体数	単位：団体	11団体	H23	13団体	H27	17団体	H27
	民間企業の進出数	単位：件	0件	H23	—	—	8件	H28
	（仮称）金田地域交流センターの潜在利用者割合	単位：％	—	H23	—	—	13.1％	H28
	道路の安全・安心の確保に対する満足度	単位：％	—	H23	—	—	62.5％	H28
	災害時の安全・安心の確保に対する満足度	単位：％	—	H23	—	—	67.3％	H28

■高速バスターミナル(市道101-2号線)整備



■ 自転車駐車場



■待合所・トイレ



■シェルター



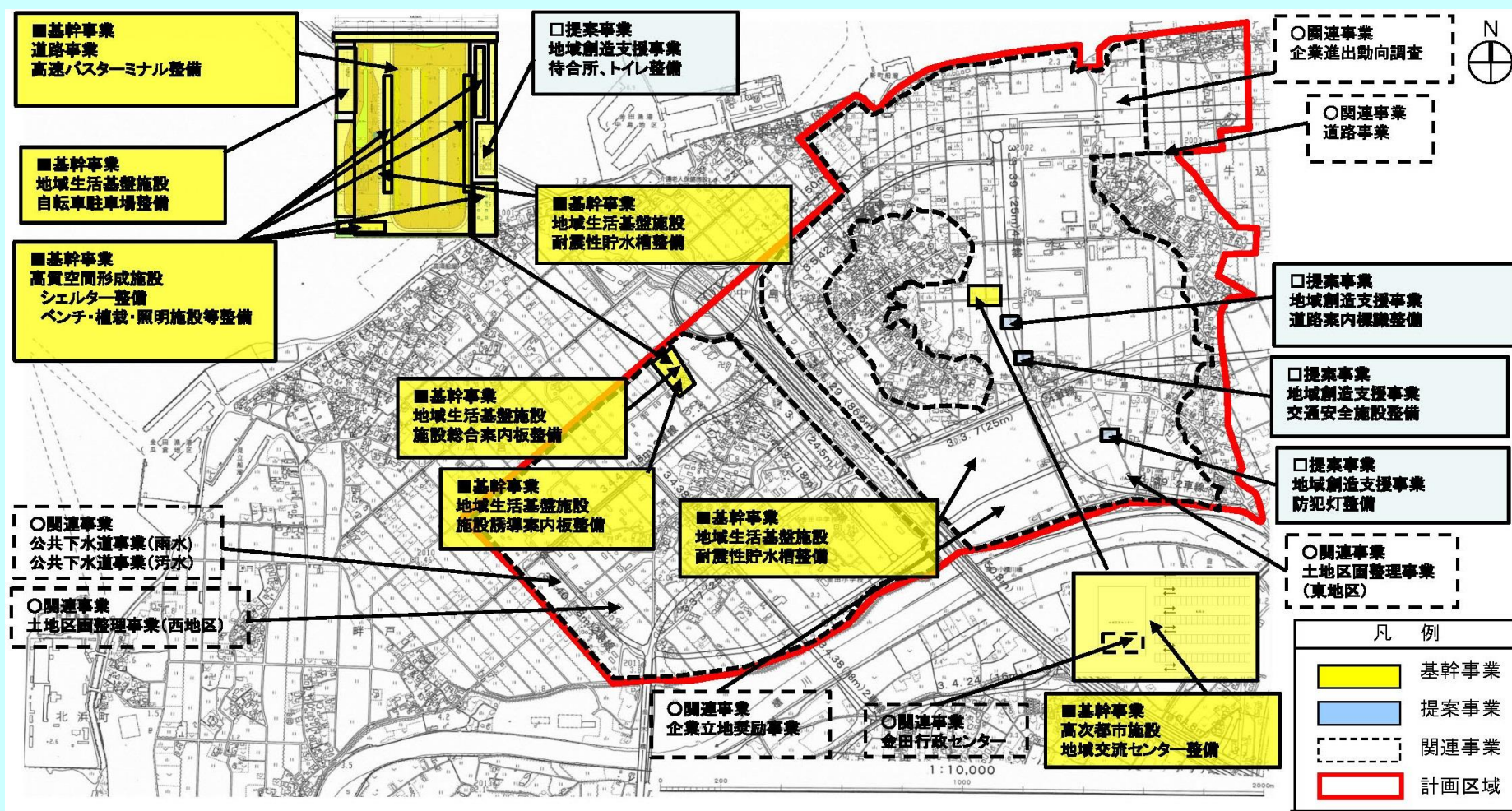
■施設総合案内板



■ベンチ・植栽・照明施設等



■施設誘導案内板



□道路案内標識整備
(板下H=5m・片持ち)



□防犯灯
(LED 防犯灯 電柱添加標準タイプ)



☐交通安全施設
 (通学路標識板下
 H=2.5m)



まちの課題の変化	・基盤整備にあわせて大型商業施設をはじめ、各種商業施設(アウトレット・家電量販店・ホームセンターなど)や観覧車アミューズメント施設がオープンするなど定住人口の増加に寄与する進出企業を受け入れることができた。 ・アクアラインとのアクセス性が高い道路を利用できる場所に、広域交流拠点として高速バス路線のハブ化を目指し高速バスターミナル(待合所、トイレ自転車駐車場等も含む)の拡張整備を行い新たな路線が乗入れ、運行開始につながった。 ・地区内人口の増加に対応する交通安全施設、防災施設が整備され安心・安全な住環境づくりが進み、また職住近接による定住人口増加により、既存の公民館では利用者数・活動団体数が増加した。 ・しかしながら、定住・交流人口に対応する施設として整備を目指した「地域交流センター」の整備が第2期計画となったことから、その整備、竣工が今後の目標となった。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	・今後の定住人口・交流人口の増加に寄与する進出企業の誘致、受入れの継続と職住近接まちづくりに寄与する住環境の魅力向上を図る。 ・高速バス運行路線数や便数の増加策・各方面からの路線バス乗入れの検討により年間乗降者数の増加を図る。 ・市民への地域交流センターに関する情報提供の促進、PRIにより、誰もが利用できるよう利便性・機能性を高めた施設づくりに努める。 ・地域の災害対応能力や道路の安全性・防犯対策の向上に向けた新旧住民の相互協力ができるような生活環境づくりを進める。